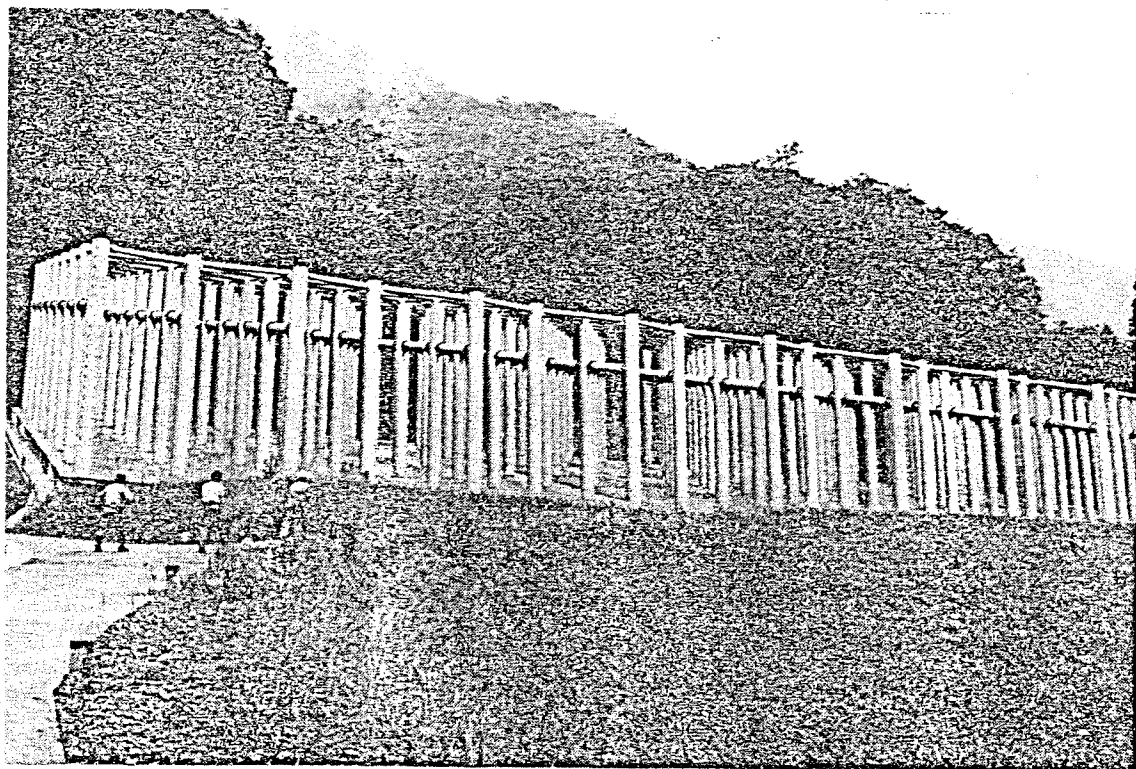


雪崩分科会レター

No. 3 (1988年6月)

日本雪氷学会雪崩分科会



1. 雪崩分科会例会のご案内
2. 雪崩関係文献の紹介 (2)
3. 会員の自己紹介 (続き)
4. 「会員の広場」への投稿のお願い
5. 用語集作製作業の進捗状況
6. 分科会会費納入のお願い

富山大学理学部

川田邦夫 気付

Tel. [REDACTED]

1. 雪崩分科会例会のご案内

昭和63年度日本雪氷学会全国大会は、日本雪氷学会創立50周年記念大会として東京の日本教育会館一ツ橋ホールで10月23日（日）から26日（水）の間開催されます。雪崩関係の口頭発表は25日（火）午前、ポスター発表は26日（水）午後に予定されています。これに合わせて分科会例会を下記のように行います。お誘い合わせの上、ご参加ください。

日時：昭和63年10月24日（月） 18時30分－20時30分

会場：日本教育会館

分科会総会の後、「海外の雪崩研究動向」について、話題が用意されています。

1) スイス連邦工科大学における雪崩研究

納口 恭明 氏（科学技術庁長岡雪氷防災実験研究所）

2) 東アルプスの雪崩対策－自然災害防止国際シンポジウム報告－

新田 隆三 氏（農林水産省森林総合研究所）

3) ノルウェーでの国際シンポジウム報告

成田 英器 氏（北海道大学低温科学研究所）

2. 雪崩関係文献の紹介 (2)

雪崩関係文献 (2) オーストリア

K. Gabl und B. Lackinger 編著：Lawinen Handbuch（雪崩ハンドブック）pp. 214, Tyrolia Verlag, Innsbruck-Wien, 1985

内容：雪崩の気象、雪の科学、雪崩学、雪崩防災、スキー場雪崩対策、ツア－雪崩対策、雪崩救助用具、雪崩遭難救助法、雪崩救急医療、雪崩予報機関、自治体雪崩対策会議、ヘリコプターや索道による人工雪崩実施基準、雪崩観測法

Österreichisches Kuratorium für alpine Sicherheit 発行：

Sicherheit im Bergland -Jahrbuch 1986-.（オーストリア山岳安全対策協会：山と安全 年報1986）pp.403, Wien

論文：オーストリアにおける災害雪崩の分布と進展方向、雪崩事故－許容危険率と法的責任－、人工雪崩用索道の効果、人工雪崩従事者の事故防止、雪崩防災研究と成果、予報業務のための雪崩情報処理システム、雪崩予報と事故予防、雪崩現場の山岳救助隊、雪崩リスクの予測可能性と限界、国立森林研究所インスブルク雪崩研究室の課題、ある「最も普通の」雪崩事故の解析、雪崩の記録写真について、オーストリア1984/85シーズン雪崩遭難記録

Internationales Symposium Interpraevent 1984-Villach, Tagungspublikation Band 2,（自然災害防止国際シンポジウム1984 ヴィラッハ大会論文集 第2巻）

A. Huber: Mögliche Auswirkungen von Schneelawinen und

Gletscherbrüchen auf künstliche und natürliche Seen. (雪崩と氷河雪崩の人造湖および自然湖への作用(コウ水波)) p. 49-59

P. Leon and R. Opazo: Avalanche mapping in the Rio Blance Valley, Chile. (チリアンデス・リオ谷の雪崩地図) p. 155-158

I. Merwald: Die Einschätzungen und Entwicklung der Schutz-wirkung des Waldes gegenüber Lawinen. (森林の雪崩防止機能の評価とその発見) p. 289-302

Internationales Symposium Interpraevent 1988 - Graz,
Tagungspublikation Band 3 (自然災害防止国際シンポジウム1988
グラーツ大会論文集 第3巻)

B. Lackinger: Zum Problem der Gleitschneelawine. (グライド雪崩について)
p. 205-226

H. Hufnagl: Ergebnisse einer rechnerischen Auswertungen von fünf Lawinen des Katastrophenwinters 1983/84. (5大災害雪崩の数理解析) p. 227-249

K. Hutter and S. Savage: Granular avalanches theory and laboratory experiments -A review of new developements. (粉体なだれ・理論と室内実験-新発展の概要) p. 251-266

E. Hanausek: Erfahrungen und Tendenzen im Lawinenschutz. (雪崩防止における諸経験と傾向) p. 267-276

M. Suda, E. Gundermann und S. Gampe: Die Abschätzung der Folgen des Waldsterbens auf die Lawinentätigkeit im Bayerischen Hochgebirge -Bausteine eines Expertensystems. (西ドイツ・バイエル州高山の森林衰退が雪崩の活動に及ぼす影響アセスメント-エキスパートシステムの要因-) p. 277-293

R. Ludwig: Die künstliche Lawinenauslösung im Bereich von Kraftwerksanlagen im Hochgebirge. (高山の発電所施設近辺の人工雪崩) p. 307-315

G. Fúsek: Lawinenverbauungen in Stahlkonstruktion (鋼構造雪崩防止工)
p. 317-320

新田隆三 記

3. 会員の自己紹介（続）

氏名：佐藤 篤 司

連絡先： [REDACTED]

国立防災科学技術センター新庄雪氷防災研究支所

学生のと時から雪崩の基礎研究なんだと信じ、雪の力学的実験をやってきた。防災センターに入って、いよいよ雪崩の研究をやるかなと思いきや、少々方向が違ってしまった。高い山々を仰ぐがごとく、雪崩の裾野をウロウロしている。

氏名：石 平 貞 夫

連絡先： [REDACTED]

建設省土木研究所新潟試験所

雪の調査、研究にたずさわって20年近くになります。現在、雪の扱い方になやんでおり、いつ脱出できるか苦闘しているところです。薬があったら教えてください。

氏名：阿 部 勉

連絡先： [REDACTED]

関越ロードメンテナンス（株）

S38.3.15 建設省で初めての人工雪崩実験を行ったときより雪崩に首をつっこむ。

S42 防雪工学ハンドブック編集に参画。その後、新防雪工学ハンドブック、新編防雪工学ハンドブックの編集。

S60年より集落雪崩対策に参画。

現在は民間企業の経営に参画している。 関越ロードメンテナンス(株)専務取締役

※ ※ ※ ※ ※

4. 「会員の広場」への投稿のお願い

次号の分科会レターから「会員の広場」というコーナーを作って会員の皆様からのお便りを載せたいと思っております。肩の張らない気軽な短文で結構ですのでどしどしお便りをお寄せください。雪崩に関する話、ご意見、体験談、ご質問、最近の話題等、何でも聞かせてください。ペンをとるのが嫌な方は電話でお知らせ下さって、こちらでメモしても結構です。多数の投稿をお待ちしています。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

5. 用語集作製作業の進捗状況――「雪氷辞典編集経過のお知らせ」――

8月8日現在、雪氷辞典項目案が雪氷24分野から集まり、その総数は約1700項目にもものぼった。そのうち雪崩関係は80項ほどであった。

雪氷辞典の出版は、64年6月末を目処にしている。今後、項目案に対する評価、分類、各分野間の意見調整が行われ、執筆作業に入る予定である。

(成田英器)

6. 分科会会費納入のお願い

雪崩分科会設立の際に昭和62年-63年度分の会費として2年分を納入していただきましたが、この度、昭和64年-65年度(2年度)分を昭和64年3月末日までに郵便為替にてお納め下さるよう、お願いします。ニュースレターの発行や企画の連絡等は皆様からの会費によってまかなわれています。ご協力の程お願いします。

個人会員 1000円 (500円*2年分)

団体会員(2人以上の組織) 2000円 (1000円*2年分)

郵便為替口座名 日本雪氷学会雪崩分科会

口座番号 山形2-10885

領収書が必要な方は振替用紙裏にその旨付記するか、会計幹事へお申し出ください。会計幹事の連絡先は下記の通りです。

〒996 新庄市十日町高壇1400

国立防災科学技術センター新庄雪氷防災研究支所

阿部 修 Tel.0233-22-7550

▼▼▼ お詫び ▼▼▼

雪崩分科会レター No. 2 の配布につき、小生の勘違いから同じ内容のものを表紙を替えて二度配布してしまいました。「会員の自己紹介」の部分に一つだけ追加したのですが、読み落としの方もいらっしゃるかもしれませんので、その部分だけ今号に内容を紹介させていただきました。ご不快のこと深くお詫び申し上げます。今後は十分に注意いたしたいとおもいます。

庶務：川田